

第75話 (60頁) なぞなぞ

ろうそくの光よりきれいなもの

〈それは、きれいな太陽〉

森よりせの高いもの

〈それは、こうこうと照る月〉

森の木々よりびっしりとあるもの

〈それは、またたく星々〉

根っこがないのにびくともしないもの

〈それは、重たい石〉

世間から身をひそめているもの

〈それは、神さまのみ心〉

「とても短いなぞなぞが五つ続いていて、日本語でも、とてもテンポがいい。もとはきっと歌になっているのでは、と思うぐらいだ。」

「確かに、ロシア語では、強弱のアクセントでリズムを決めている。それが和訳にも反映されている感じだ。まさか歌があるかどうかは知らないけど…」

「光と森、太陽と月、といったところでは、韻も踏んでいるよ。部分的にだけど、ね。」

「なぞなぞって『マザー・グース』でも、『グリム童話』でも、だいたい質問がとても長い。身の回りのことだったり、自然から題材を取っている例が多いようだ。」

「アーズブカでも、三つ目までは太陽、月、星と、答えも目に見える自然から選んでいる。しかも、三つとも、何とかより何とかなもの、と比較の問いになっている。」

「四つ目で『重たい石』と、ちょっとニュアンスが変わって、地味だけれども何か価値がある、という印象が出てくる。」

「イエスの使徒、パウロは、岩の意味だったし…」

「そして、最後の五つ目は、とても教訓的というか精神的だ。『世間から身をひそめているものは』と問われ、『それは、神さまのみ心』というんだから。こういうなぞなぞは、とても珍しいんじゃないかな。」

「トルストイが一番言いたかったことだ。サン＝テグジュペリの『星の王子さま』の、かんじんなことは目に見えないんだよ、という一節とも通じる気がするよ。」

「ろうそくの光よりきれいなもの、という最初の問いだけど、答えはアーズブカの『きれいな太陽』だけじゃなくて、いっぱいありそうだ。『それは、だれだれちゃんの瞳』とかね。」

「子どもたちはなぞなぞが大好きで、よく自分たちで作るが、だいたい、答えが先にある。だから、質問されても、子どもの目の先を見ていると、答えがすぐわかっちゃう。」

「なるほどね。アーズブカのなぞなぞは、五つとも、どう考えたって、答えが先だね。トルストイが導きたい最後の答えへの伏線になっているのだから。」